
始まりと終わりのない恋愛

山上 楓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

始まりと終わりのない恋愛

【Nコード】

N0798U

【作者名】

山上 楓

【あらすじ】

ハクが恋をした？

VOCALOID以外のキャラクター登場の恋愛小説です。

18禁には が付きます。

「」は喋り言葉、（ ）は心だけで思った言葉、【 】は作者（私）の思い、『 』は二人以上のかぶり言葉となります。

ハクの気持ち（前書き）

初めての投稿となります（＾－＾）
ほとんど亜種しか出ませんが、楽しんでいただけたら幸いです（＾－＾）

ハクの気持ち

（私は一体…）

「はあ…どうせ私はだめなやつなのよ…」
酒を飲みながら涙目の弱音ハク。

「しょうがねえだろ。俺達は元々VOCALOIDじゃないんだから…」

そう言う本音デル。

「そうだけどね…私たちはVOYAKILOIDだもんね…」

「まあな…諦めようぜ…」

「そうね…今日も飲みましょ…」

「…ハク姉も…デル兄も…暗いよ…」

と、言う初音ミク。

「仕方ないでしょ？私はあなたと違ってVOCALOIDじゃないんだから…」

「だからって…」

「分かったら向こう行って。今は飲みたいのよ…」
「……」

黙って背を向けて歩いていくミク。

「……はあ…」

そしてハクは、誰にも聞こえない声で…

「私に恋人でもできたら…何かが変わるのかな…」
そうポツリと…呟いた…

ハクの気持ち（後書き）

いかがだったでしょうか？

初めてなので短いですが（^| ^ ;）

次回より頑張つて長くしたいと思います（^| ^）

新キャラ登場させるつもりですww

よかったらコメントをお願いします!!

あなた…誰…？（前書き）

新キャラ登場となります（＾―＾）

あなた…誰…？

次の日…

「はあ…おはよデル…」

「おはようじゃねえよ…もう昼だぜ…」

「別にいいじゃない…やることないんだし…」

「そうだけだよ…」

「でしょ？ちよつと散歩してくるわ…」

「ああ…」

そう言っでデルと別れたハク。

「はあ…恋愛なんて夢のまた夢…人に夢と書いて儚い…まあ…私は人じゃないけど…」

そんな独り言をつぶやいていると…

「ん…？誰…？」

目の前に見たことのないVOCALOIDらしきものが立っていた。

「………」

「えっ…と…」

「名…前…は…？」

「…え？」

「名…前…」

「えっと…私は弱音ハクだけど…あなたは…？」

「…死…音…」

「…え…？」

「…僕…死…音…死の…音で…死音…」

「へえ…死音君っていうんだ…」

「君と同じ…VOCALOID…亜種…」

「あなたも…亜種…？」

「……」(コクリ)

「そ、そう…なんだ…」

(どうして…？普通に話しているだけなのにこんなにドキドキするの…？)

この気持ちは…何…？)

あなた…誰…？（後書き）

今回新キャラとして死音というキャラクターを入れました（＾―＾）
死音の設定として、

？感情がない（というより分からない）

？…の言葉が多い

？歌が嫌いなVOCALOID亜種

？名前のとおり歌を聴くと死ぬことがある

？たまに歌を聴くと幸せばかり続くことがある

です（＾―＾）

最近はVOCALOID亜種はたくさんあつて、1500以上存在
してるそうで（＾―＾；）

なんで鼓動が止まらないの…！？（前書き）

ハクが恋に目覚めたのですが恋自体を知らないのでよく分からなくなるお話です（＾―＾）

なんで鼓動が止まらないの…!?

(落ち着いてよ私…!!)

「はあ…はあっ…」

「……？」

「な、なんでもないんだよ…？」

「……嘘…？」

「っ…！」

「違っ…た…？」

「ち、違うよ!？」

「……」

「……」

(なんで…なんで鼓動が止まらないの…!?)

ハクの心臓は破裂するんじゃないかというくらい早くなっている。

【ハクはVOYAKILOIDなので心臓なんてないんですけどww
ww】

「わ、私…帰るね…？」

「待っ…て…」

「え…？」

「ハク…危ない…僕が…送る…」

「い、いいよそんなこと…！」

「大…丈…夫…？」

「だ、大丈夫だから…!またね死音君…！」

そういうハクは、顔を真っ赤にしながら死音から離れて行った…

(私…一体…どうしちゃったの…!?
体が…心が…熱いよ…!!)

なんで鼓動が止まらないの…！？（後書き）

次くらいでハクが恋に気づくようにしたいですね（＾－＾）

もしかしてこの気持ちが…（前書き）

恋というのに気付きます（＾―＾）

もしかしてこの気持ちが…

「た、ただい…ま…」

「ああ…って、なんでそんなに息切れしてんだ…？」

「あ、ううん…何でもないんだよ！？」

「声裏返ってるし…」

「と、とにかく何でもないので！！変な人にも会ってないからね！！？」

「聞いてねえ…」

「あっ…！！」

「お前…誰か会っただろ？」

「う、ううん！？」

「嘘だ。」

「ち、違うよ！？死音君になんて会ってないよ！？」

「…誰だその死音って？」

「あうっ…！？」

「…誰だよ？」

「……秘密！！」

そう言っで逃げるハク。

「あ、おい待てよハク！！誰なんだよ死音って…？」

「秘密なの…！！」

（ごめんねデル…私…死音君のこと…好きになっちゃったみたいなんだ…）

「好き…もしかして…これが…恋…！！」

（私…死音君に恋してるんだ…！！）

もしかしてこの気持ちが…（後書き）

次はデルの気持ちを書く特別編です（^| ^）

どうしたってんだよ…（デル）（前書き）

今回はデルが主役です（＾―＾）

どうしたってんだよ…（デル）

「一体どうしちゃったんだよ…ハクは…」

デルは突然逃げたハクの行動が理解できず悩んでいた。

「誰だ…死音ってやつは…!？」

考えても思い当たるVOCALOIDはいない。

「くそっ…」

一人で悔しがっているデル。

「…!？なんで俺はハクのことこんなに気になるんだ…!？ただの同じVOCALOIDなのに…」

デルはしばらく混乱していたがやがて一つの結論に至った。

「俺…死音に嫉妬してる…?俺はもしかして…ハクのことか…」

「どうしたの…デル…？」

「…テト…」

どうしたってんだよ…（デル）（後書き）

デルが嫉妬…

ハクが羨ましいです…（^| ^）

ちなみに、重音テトも亜種です（^| ^）

私…君が好きなの!! (前書き)

とうとうハクが告白!!

私…君が好きなの…!!

「死音君…」

「ハ…ク…?」

「死音君…言いたい…ことがあるの…」

「……?」

「あのね…」

「…?」

「私…君が好き…死音君のことが大好きなの…!!」

「ハク……」

「……」

「(…とうとう…言っちゃった…!!)」

「ハ…ク…」

「……」

「僕…よく…分からない…」

「……」

「(駄目なのかな…)」

「でも…ハクに…言われて…嬉しいよ…?」

「……!!」

「僕…ハクと…一緒に…居たい…」

「……本当?」

「……」(コクリ)

「……死音君…大好き…!!」

私…君が好きなの！！（後書き）

さて…

いったいどうなるのでしょうかね…？

（お前自分が作者だろww）

…やっぱり…な。(デル)(前書き)

だいぶ遅くなりまして申し訳ありません!!
また書き始めますね!!

…やっぱり…な。(デル)

「……どうにも怪しいぜ……」

「……?」

「ハクがな…おかしいんだよ…」

「???」

「あれはいつものハクじゃなかった…」

「へえ…やっぱり付き合い長いと分かるんだねえ…」

「くそっ…デモなんでこんなにハクのことを心配しなくちゃならねえんだよ…」

「…あなたが…ハクを好きだからじゃない…」

「なっ……」

「…違う…?」

「……いや…うすうす自分でも感じていたさ…俺は…ハクが好きなんだ…ってな…」

「…その気持ち…ハクに言ってみたら…?」

「いや…もう無駄だろ…」

「何で…?」

「お前の後ろ…に壁があるな…」

「…あるね…」

「まあ…その穴から見てみるよ…ハクが見えるぜ…」

「うん…?」

テトは穴を覗いた。すると…

「えっ!?!ハク…知らないボカロと手を…!?!」

「ああ…死音って言うらしい…」

「……」

「だから無駄なんだよ…もう…彼氏がいるんだからな…」

…やっぱり…な。(デル)(後書き)

…デル…無言の失恋…
皆さんも経験ありませんか…？

えっと…これは…ね…？（前書き）

ハク、デル、死音が直接会います！！
デルの行動、ハクの反応とは…？

えっと…これは…ね…？

「ふふ」

「ハク…ご機嫌…？」

「え？あ…まあね／＼／」

「なん…で…？」

「それは…死音が居るからだよ…／＼／」

「…うれしい…？」

「…嬉しいよ…」

「…僕も…嬉しい…」

「そっか…」

しばらくして…

「あ…ハク…」

「デル…と…テト…？」

「ハク、やつほ」

【元氣な31歳なことで…】

「…なんか変な事思ってない…？」

「考えてない考えてない！！」

「…誰…？」

「えっと…本音デルと…重音テト…」

「ハク…そいつは…？」

「死音…私の…彼氏…」

「ハクの…彼氏さん…？」

「へえ…お前が彼氏を作るとは…」

「あ、ごめん…今からちょっとデルと出かけてくるんだ…」

「おう、そういうことだからよ、二人で留守番頼むな…？」

「う、うん…分かったよ…」

「ほい鍵。」

「…了解…」

「じゃ、行ってくるな。死音…か？ハクを頼むぜ。」

「…了解…した…」

「じゃあな！！」

「うん…」

そして二人は離れていった…

えっと…これは…ね…？（後書き）

テトは31歳なんですよ（^-^;）
顔は超口リに見えますが…
次はまたデル視点です（^| ^）

何…だって…（デル¥）（前書き）

どうやらデルにも新たな恋人が出来たみたいで…？

何…だって…（デル¥）

「はあ…」

「元気出しなよ…」

「良いさ…俺たちはボヤキが仕事だ。ボヤキをした方が良いんだよ

…」

「何やってんの？あんたたち…」

「あ…？」

「飽きた寝る…」

「亞北ネルよ…！」

「何の用だよ…」

「べ、別に用は無いけどさ…」

「あつそ…」

「どうしたの…？元気無いわね…？」

「実はデル…ハクに恋人が出来て落ち込んでるのよ…」

「う、うるせえ馬鹿…！」

「ふうん…」

（…チャンス♪）

「じゃ、じゃあアタシがなってあげても良いけど…？」

「いや…別にいいや…」

「な、何よ！？せっかくアタシが勇気出したのに…」

「お前…レンじゃ無いのかよ…？」

「実はさ…リンに取られて…」

「じゃあ…お前…さっきの…」

「そ、そうよ…！」「告白」よ…！悪い…！」

「お前…」

「…／／／／／／／／／／」

「ああ…頼む…」

「…！…」

「恋人に…なつてくれ…!!」

「…仕方ないわね…// //」

「好きだぞ…ネル…」

「あ、アタシも…// //」

「……………」

【重音テトです】

(…私ほったらかしなんだね…やっぱ…31歳だから…?)

何…だって…（デル¥）（後書き）

亞北ネルも亜種。

弱音ハク、亞北ネルは有名な亜種です！！

デルVS死音、ハクVSネル!?(前書き)

え、まさかの対決勃発!?

デルVS死音、ハクVSネル！？

「死音…」

「…？」

「ねえ…なんか視線を感じない…？」

「…解析中…」

「………」

「本音…デル…及び…亞北…ネル…の…視線を…観測…」

「デルと…ネル…」

「後方…200M後ろに観測…」

「デル！！ネル！！何の用！？」

「！？」

「ばれたか…」

「何してるの…あんたたち…」

「………」

「デートよ！！」

「はあ？」

「悪いなハク。俺はネルと付き合ってた。」

「…そう…死音…行こう…」

「……本音…最低…」

「………」

「余計なお世話よ！！行こうデル！！」

「あ、ああ…」

（絶対にハクとデルをくっ付けてやるんだから…）

意気込むネル、無言のデル、冷酷な死音、落ち込むハク…

この後…意外な展開が待っているとも知らずに…

「………」

（やっぱり私置き去り…？）

【だから重音テトですww】

この後、テトが運命の鍵を握る…!!

デルVS死音、ハクVSネル!?(後書き)

次回はエロ関係に行く…か…?
意外と恥ずかしい… / / / / /

俺は…ハクが…諦めねえんだよ！！（デル）（前書き）

ちよつとエロ関係に行く前に…

ネルの告白…！！

俺は…ハクが…諦めねえんだよ！！（デル）

「……」

「……」

「……あのさ……」

「……あ？」

「……アタシ……さ……あれ……告白じゃないんだ……」

「……はあ？」

「実は……デルと付き合ってハクが死音のこと諦めるかなって……思ったんだけど……」

「じゃあ……俺を……騙したのかよ……？」

「……デルも騙さなきゃ……おかしくなるからさ……」

「……」

「そりゃ……騙してたのは悪かったけど……」

「……」

「だってさ……デル見てたら分かるんだもん……」

「……何を……？」

「……デル……まだハクの事諦めてないなって……」

「……っ」

「だからさ……アタシも……決めたんだ……」

「……」

「アタシも……デルとハクが恋人同士になれるように……手伝おうって

「……」

「……ネル……」

「だからさ……聞かせてほしいんだ……デルの……本当の気持ちを……」

「……」

「……」

「……俺は……」

「……」

「俺はまだ…ハクの事が諦めねえ！！」

いや…諦めれるわけねえんだよ！！

だからネル…悪い…別れてくれ…」

「うん。分かった。」

デルがちゃんと、自分の気持ちを言ったから。」

「すまない…ネル…」

「アタシも悪かったわ…騙してたんだもの…」

「……」

「だから…これでお終い。」

絶対ハクを恋人にしてよね？

アタシも手伝うから！！」

「……ああ！！当たり前だ！！」

俺は…ハクが…諦めねえんだよ！！（デル）（後書き）

さて…やっぱり諦めれないデル…

このあと…ハクとデルにとんでもないことが…！？

え、ちよつとまって！？何この穴！？（前書き）

デル、ハクに緊急事態発生！？

え、ちよつとまって!？何この穴!？

「ん…？」

「……？」

「いや…気のせい…かな…」

「……？」

「いやね、デルの声が聞こえたんだよね…」

「以心伝心…？」

「いやいや…そんな馬鹿な…っ!？」

「!？」

「え、ちよつとまって!？」

「何この穴!？」

「ハク…!!」

「きゃ、きゃあああああああああ!!」

その頃…

「はあ…しかしよお…どうしたらハクを取り戻せんだか…」

「まずはさ…ハクがどんなことに興味あったか思い出してみれば?」

「ああ…そうだな…っ!？」

「え…？」

「え、ちよつと待て!？」

「何だよこの穴!？」

【同じもの使うwww】

「デル!？」

「な、なんなんだよおおおおおおお!!」

「デル!!デル!!」

そして…

「痛たた…何なんだろ急に…」

「痛てて…何なんだよ一体…」

「え？」

「は？」

『ええええええええええええ！！？？』

「デ、デル!?」

「ハ、ハクかよ!？」

「なんで一体ここに!？」

「お前こそ何で居るんだよ!？」

「私は……いきなり穴に落ちて……」

「お前もかよ……俺も落ちたんだよな……」

… 一体… 何が…

ちゅちゅ...

「見つけた……」

「亞北ネル」

「アンタに聞きたいことがあったのよ……」

え、ちょっとまって！？何この穴！？（後書き）

さて…二人は無事に帰れるのか…？

死音とネルの話…とは…？

この四人に…何かが起こる…！！

閉じ込め…られた…？（前書き）

二人が出口を探してみるものの…

閉じ込め…られた…？

「……」

「……」

（気まずい…）

「あの…さ…」

「何だよ…」

「ネルとは…どうなの…？」

「ん…？」

ああ…別れた…」

「……は？」

「別れた。」

「な…なんでなんでなんで！？」

「理由は言えねえ…」

「言えないって…」

「ただ…ネルは…優しく騙してたんだよ…」

「優しく…騙す…？」

「…とりあえず今は出口を探すしかねえだろ…」

「う、うん…」

一方…

「死音20001号…それがあなたの名前…」

「……」

「ねえ…何が目的なの…？」

なんでハクに近づいたの…」

「…流石…亞北…ネル…勘が…いい…」

「何が目的なの…答えて…」

「僕は…破壊のための…VOCALOID…初音ミクを…殺すために…」

「っ…!？」

「だから…邪魔…しないで…」
その頃…

「駄目…見つからないよ…」

「どこに向かっても暗闇ばかりかよ…」

「一体…私達…どうなっちゃうの…」

「そんなこと…分かるかよ…」

「早くここから…出たいよ…」

そう言ってハクの目から…涙が1粒零れ落ちた…

閉じ込め…られた…？（後書き）

一体2人は抜け出せるのか…？

真の目的を聞いた…ネルは…？

次話…デルとハクの2人に…恐怖の魔の手が襲い掛かる…！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0798u/>

始まりと終わりのない恋愛

2011年12月20日16時47分発行